

| |
|---|
| <p>1 学校教育目標</p> <p>校訓「通潤魂」(豊かな心、勤労の喜び、創造の喜び、不屈の意志)を柱として、三綱領「誠実にして 礼節を重んずる」「勤労を尚び 自立を目指す」「創造の喜びを求め 不屈の意志を培う」を実践する。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>2 本年度の重点目標</p> <p>「自ら気づき 考え 行動する」</p> <p>すべての教育活動と地域とのつながりの中で自立する生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら気づき 考え 行動する」という教育スローガンのもと、すべての教育活動をとおして生徒の主体性や自らを律する力を育成する。 ・地域とのつながりをとおして、将来、地域社会を構成する自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力(人間力)を高める。 <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の自己有用感を高める指導の充実(居場所と出番、安心感のあるクラスづくり) 2 生き生きと学び合う授業づくりの推進(授業改善と学習評価の工夫、ICT活用) 3 自治力を高める活動の推進(生徒会、学校家庭クラブ、学校農業クラブの充実と推進) 4 地域とともにある学校づくりの推進(地域との協働事業、ボランティア活動) 5 健やかでたくましい心身を育む教育の推進(心身の自己管理、部活動の推進、5S活動) 6 実効性のある働き方改革の推進(業務内容の見直しで生徒と向き合う時間を作る) |
|---|

| |
|---|
| <p>評価 A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや不十分である D : 不十分である</p> |
|---|

| 3 自己評価総括表 | | | | | | |
|-----------|-----------|--|--|---|----|--|
| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 学校経営 | 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ○ 広報活動の推進 ○ 公開授業の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の取り組みや学校の最新情報の発信 ○ 公開授業を年間2回実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT・広報部を中心としたHP・SNS等の運用と情報発信 ○ 各部・各科・各学年が連携した広報活動の実施 ○ 年間2回、学校全体で実施 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○ パンフレットの配布先を拡げ、SNSはフォロワー数200人増加。HPも6月末から15万件以上のアクセスがあった。 ● 各部署との連携不足や情報発信に偏りが見られる。 ○ 年間2回、公開授業は計画通りに実施することができた。昨年度比で参観者数は微増である。 |
| | 職員の資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校改革による業務改善及び校内研修の充実 ○ 研修等への積極的な奨励及び育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 校務分掌の活性化とリーダー育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部講師による校内研修の実施 ○ 各担当業務における具体的目標の設定とその進捗状況の把握 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○ 主任主事を対象とした校内研修や組織の共通理解を図る研修等を実施。 ● 研修を生かした組織内での実践度・浸透度に各部署で温度差が見られる。 ○ 担当業務の進捗や次年度への引継ぎを副主任会において把握し改善・対応へと展開した。 |
| | 働き方改革の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務の整理・効率化による教職員のワーク・ライフ・バランスの実現 ○ セルフマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> ○ 時間外勤務時間が月45時間を超えない教職員を月平均6人以下 ○ 年間年休取得平均14日以上 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務改善策の募集・実施 ○ 職場の環境整備による迅速な情報共有化 ○ 日常的な職員への声かけ | B | <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設・設備等のチェックを学期1回実施し、環境設備の改善とともに改善策について意見収集を行った。 ● 時間外勤務時間が月45時間を超える教職員は1月末現在で平均8.9人であった。 ○ 12月から時差出勤を |

| | | | | | | |
|--------------|------------------|--|---|--|------------|--|
| | | トの育成 | 上 | | | 開始（6人活用） ○年間年休取得平均16日となった。 |
| | 危機管理体制の強化 | ○危機管理意識の向上と的確な対応 ○学校管理下の事故未然防止の取組 | ○危機管理マニュアルの点検・見直し及び防災避難訓練等の実施 ○実験・実習・体育・学校行事等での事故「0（ゼロ）」 | ○危機管理マニュアルに沿った避難訓練の実施とマニュアルの見直し ○実験・実習・体育・学校行事等における想定及び事前指導の徹底 ○定期的な劇物・薬物の保管・使用状況の点検及び施設・設備の点検 | A A | ○他校の落雷事故に伴い関係部署と連携し、危機管理マニュアルを見直し周知した。 ○危機管理マニュアルに沿った避難訓練等の防災関連行事を年5回実施し、生徒・職員の防災意識を高めた。 ●事故等を想定した事前指導は各部署で行っているが、チェック体制は確立できていない。 ○日常の安全点検、危険箇所の明示を行った。改善が必要な場合は対応ができた。 ○巨木で倒木の恐れのある校内樹木の伐採・選定を実施。 ○校内での大きな事故は発生しなかった。 |
| 学力向上 | 基礎学力の向上 | ○学校全体での個に応じた指導の徹底 | ○生徒の理解度に応じた授業づくりの推進 ○授業時間の管理 ○個に応じた指導と課題の充実 | ○授業時間の確保 ○課題提出の徹底 ○進路指導部と連携した学習支援ツールの活用 | A | ○積雪時の遠隔授業を実施し、学びの保障を行った。 ○学期毎の授業時間数管理を徹底した。学習支援ツールの活用や到達度テストの実施など、具体的方策にあげていることは概ね達成することができた。 |
| | わかる授業の創造 | ○生徒の実態にあった教科指導力の向上 | ○学習指導要領に対応した観点別評価の確立 ○ICTの活用を意識した授業の実施 ○合理的配慮ある授業づくりの推進 | ○シラバスの活用と評価方法の工夫・改善 ○ICT・広報部や支援員による研修会の実施 ○教育相談部と連携した授業のUD化推進 | B | ○近隣中学校から講師を招き、観点別評価に係る研修を実施し、指導と評価の一体化をさらに進めた。 ○授業の実施形態やテスト、課題に応じた観点別評価ができています。 ●授業や探究学習へのICT活用が進む一方、授業UD化はこれからも検討が必要である。 |
| | 朝読書の充実 | ○朝読書の推進 | ○10分間黙読の徹底 ○全職員による読書指導の徹底 ○一人当たり年間冊数の増加 | ○実施時間を日課表に明示 ○朝読の意義を職員に周知 ○図書だよりの活用 | A | ○日課表に明示できた。 ○ICTを活用した図書だより作成・配付も定着。 ●図書館は頻繁に利用されている一方、電子媒体による読書が普及する中で年間の生徒一人あたりの貸出冊数は微増であった。 |
| キャリア教育（進路指導） | 将来を見通したキャリア教育の充実 | ○適確な自己分析と適正な進路選択 | ○キャリアパスポート活用、キャリアプランニング能力 | ○キャリアパスポートを活用した進路LHRの検討、系統別進路学習・進路 | B | ○具体的方策を実施し生徒の進路意識の向上と進路目標の確認並びに進路実現に繋がった。 ○生徒の進学目標に合わ |

| | | | | | | |
|------|-----------------|--------------------|--|---|---|--|
| | | | <p>の育成 ○進学目標実現</p> | <p>ガイダンス・進路・成績検討会の実施 ○進学目標実現に向けた個別受験対策の充実</p> | | <p>せた、個人指導を中心とした受験対策を実施した。 ●進路指導上で得たデータの有効的な活用、学校全体への共有化をさらに進める。</p> |
| | 就職指導の充実と進路保障の実現 | ○適正な自己理解と職業選択 | <p>○就職内定100%達成 ○早期離職率低下</p> | <p>○担任とキャリアサポーターとの連携 ○就職試験に向けた個別指導の充実 ○事前職場見学推進</p> | A | <p>○キャリアサポーターによる面談と本人の希望を加味した受験企業提案並びに担任との情報共有を行った。 ○就職内定者集会、「やまとしごとストア」を実施し適正な自己理解と職業選択を行った。 ○就職面接や試験の個別指導の徹底により、就職内定率100%を達成できた。</p> |
| 生徒指導 | 基本的なマナーの徹底 | ○進学・就職への意識の向上 | <p>○進路指導部と連携した面接試験等に通用する整容・挨拶指導の徹底</p> | <p>○服装・頭髪指導年4回実施 ○全職員による自ら考えさせる服装・頭髪指導 ○挨拶運動、登校指導の実施及び集会等での実践</p> | A | <p>○具体的方策を計画的に実施でき、概ね目標を達成できた。 ●整容面では繰り返し指導が必要な生徒も見られた。 ○挨拶指導では、全職員による指導に加え風紀委員を中心とした生徒主体の取り組みも行った。</p> |
| | 交通安全教育の充実 | ○全人教育としての交通安全教育の充実 | <p>○交通事故・違反等重事故や違反件数「0(ゼロ)」</p> | <p>○登校指導、安全点検の実施、 ○交通安全教室、新規免許取得者講習の実施 ○交通事故・違反者の事後指導の実施 ○自転車通学生へのヘルメット着用の義務化</p> | B | <p>○具体的方策を実施できた。 ●昨年度と比較して交通事故や違反者の件数が増加しており事後指導の強化が求められる。 ○2学期から自転車通学生のヘルメット着用を義務化し、安全意識の向上を図った。</p> |
| | 自ら考える指導 | ○生徒の実態に合った生活態度の見直し | ○校則の見直し | ○生徒会を中心とした見直しの検討 | A | <p>○生徒会中心に生徒主体で頭髪に関する見直しを職員・生徒を対象にアンケート調査を実施した。 ○社会情勢を踏まえながら現行の校則や学校生活について再考する機会となった。</p> |
| | | ○環境美化と環境教育の推進 | ○保健・環境委員会を中心とした環境美化活動の充実 | <p>○ゴミの分別収集の徹底 ○校内放送や掲示物等による啓発活動 ○生徒が主体となる5S活動の実施</p> | A | <p>●一部、ゴミの分別や収集にばらつきがあり、改善の余地がある。 ○5S活動の啓発やコンクール等の実施により5Sへの意識向上が見られた。 ○町内清掃を年2回計画していたが、生徒の自発的な取り組みとして</p> |

| | | | | | | |
|---------------------|------------------------------------|--|---|---|---|--|
| | | | | | | 3回目を実施予定。 |
| 人権教育の推進 | 命を大切に、差別を見抜き許さず行動ができる生徒の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○人権教育の内容の充実 ○命を大切に育てる指導の充実 ○職員研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○LHRの授業内容の精選、教材研究の推進 ○研究授業による指導力向上 ○職員の共通理解と認識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ○授業検討会の実施 ○各学年年間4回分の教材を作成 ○年1回の講演会の実施と年5回の研修を実施 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○検討会を実施し、教材作成。各学年やクラスの実情に応じて教材を設定し、指導の充実を図れた。 ○中・高合同の講演会を実施。職員研修も計画通り実施し、職員間の共通認識を図ることができた。 |
| いじめの防止等 | いじめの未然防止「早期発見」 | <ul style="list-style-type: none"> ○全ての生徒が安全に学校生活を送り、規律正しい態度で授業や主体的・活躍する学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人が自覚を持って授業・学校づくり ○いじめの早期・未然防止への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人が活躍できる学校行事等の充実 ○規律ある学校生活のたぐい、授業・生徒指導の充実 ○2者面談・アンケート等の定期的な実施 ○登校指導での生徒への積極的な声かけと観察 ○各部会での情報共有化と組織的で迅速な対応 ○専門家との定期的な防犯対策会議の開催 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○具体的方策に挙げている内容は概ね達成することができた。 ○各学年会における生徒の情報共有、生徒情報の共同収集・共同作成体制、人権標語づくりの取り組みを実施。 ○いじめの認知件数が4件あり、早期対応を徹底した。 |
| 地域連携(コミュニティ・スクールなど) | 郷土を愛し・誇りを持つ生徒の育成と総合型コミュニティ・スクールの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域行事、ボランティアへの参加 ○全学科の「総合的な探究の時間」において地域課題に関する学習を実施 ○地域の状況を踏まえ教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民との連携 ○自治体・地元企業との連携 ○生徒が主役となる地域行事や交流の参加 | <ul style="list-style-type: none"> ○八朔祭での造り物製作並びにボランティア活動の実施 ○協議会における意見交換での学校の創造的な魅力化推進 ○地域消防署と連携した防災訓練並びにAED職員研修の実施 ○地域課題をテーマとした学習活動 ○近隣小・中学校との交流活動 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○八朔祭では、干支である竜をモチーフにした造り物を製作・引き回しにも参加。棚田ボランティアや植樹活動も継続して実施。 ○6月の学校運営協議会や10月の県立高校あり方検討会意見交換会において意見収集し、校内での情報共有化を図った。 ○避難訓練・救助活動など地域の消防署と連携し生徒・職員ともに実演指導を受けることができた。 ○「総合的な探究の時間」などで町内の事業所とコラボ商品を開発。地域の魅力を高める学習活動を行った。 ○近隣中学校との交流学習も計画的に3回実施 |

| | | | | | | |
|-------------------|----------------------|----------------------------|--|--|---|--|
| | | | | | | できた。 |
| 特別支援教育（教育相談含む）の推進 | 特別な支援を必要とする生徒への柔軟な対応 | ○個の発達に応じた指導の充実 ○職員研修の推進 | ○生徒の自立と社会参加を見据えた指導・支援の充実 ○関係機関との連携強化による切れ目のない支援の充実 ○教職員の特別支援教育に係る資質と指導力の向上 | ○生徒の指導計画を作成及び全職員による支援 ○関係機関との連絡会やケース会議の積極的な実施 ○研修会を年3回実施 | A | ○特別支援学校のコーディネーターによる巡回相談や、SC,SSW・自治体と連携したケース会議の実施によって、具体的な支援に繋がれた。また、医療機関との連携も取ることができた。 ○教育相談部による生徒理解研修を2回、外部講師を招聘した研修を1回実施できた。 |
| 専門教育 | 専門教育の充実 | ○魅力ある学科づくりと地域への発信 | ○学校農業クラブ・学校家庭クラブの活性化と地域と連携した活動の実施 ○学習活動の積極的な発信 | ○各種競技会やイベントへの積極的な参加 ○近隣保育園や小中学校との交流活動 ○学校HPやSNSでの発信 | A | ○農業クラブ全国大会では平板測量競技と農業鑑定競技(生活・草花)において優秀賞を受賞した。 ○山都町内外の行事やイベント、交流会等に参加し、地域へ学科の取り組みや活動内容をPRする他、HPでも情報を随時発信することができた。 |
| | 高い専門性と職業観の育成 | ○専門性の向上と将来を見据えた体系的な学習展開 | ○地域産業との積極的な連携による生徒の専門性向上 ○インターシップや校内外の研修をおとした実践的・体験的な学習の実施 | ○先進農家や企業、農業大と連携した取り組みやインターンシップ・先進地研修の実施 ○外部専門家などの講演会の実施 | A | ○地域農林業の理解を図るため、視察や研修、インターンシップを計画通りに実施した。 ○外部専門家などによる講演会や実技指導を食農科学科23回、林業科学科で26回実施することができた。 ●専門教育に係る全国大会にも多くの生徒が出場できたが、移動・旅費の確保に課題が残った。 |

4 学校関係者評価

- ・全国で同じような農業系・林業系の学校等と連携し、各種大会やイベントを企画・開催することで話題性や評判づくりを行い、全国的に本校の知名度を上げることができる。
- ・普通科の特色ある活動が専門学科に比べて弱い。他校の普通科との違いを明確化し、山都町にある本校らしい特色ある普通科をしっかりとPRしていく必要がある。
- ・「朝の読書」の取り組みは非常に良いが、生徒の評価に対して職員の評価が低い。何故そのような結果になったのか、検証し改善点を明らかにしてほしい。
- ・積雪や凍結による登校困難な生徒に対して遠隔での授業や課題の提供など、ICTを有効的に活用した取り組みが実践的に行われている。
- ・地域のボランティア活動に多くの矢部高生が意欲的に参加している。今後も継続的に食農科学科による棚田を守るための水路清掃、林業科学科による植樹活動に参加してほしい。
- ・教育スローガン「自ら気づき考え行動する」を掲げた教育活動の中で、生徒たちの自主的で自発的な取り組みが出始めてきている。（校則の見直し、町内清掃活動の企画、学校行

事等の新たな企画・提案など)

- ・中学生の先生方や保護者の本校に対する理解が進んでいないように感じる。昔からの本校のイメージや印象が強い。現在の本校の教育活動や学習成果について、しっかりと理解してもらうためにも、山都町教育員会を通じた協働的なPR活動が必要である。
- ・全国大会に多数の生徒が出場することができた。生徒の旅費確保に課題が残ったが、物販や寄附など地域の方々や同窓会による手厚い支援によって対応することができた。
- ・本校に入学を希望する生徒の多くは、身体を動かすことが好きな生徒が多いように思う。入学した生徒たちの意向調査や追跡調査を継続し、さらに分析していく必要がある。
- ・「地域みらい留学」を実施する高校が県外も含め、全国的に増加しており、全国からの生徒募集においても年々厳しくなると思われる。競争激化する状況において、寮の新設・移転は喫緊の課題であり、実現するためにも町の理解とさらなる支援をお願いしたい。

5 総合評価

- ・生徒一人ひとりの実状に丁寧に寄り添いながら、熱心な学習指導、進路指導、生徒指導等の実践に努めており、その成果が本年度の進路状況にも着実な成果として表れている。
- ・例年、転・退学者は少なからずいるが、担任・学年団・教育相談部・養護教諭・人権教育主任などの校内連携に留まらず、外部の専門機関（SC・SSW・自治体等）との積極的な連携強化している。さらに今年度は、医療機関への接続を行ったことで、生徒や保護者の不安や困り感を取り除くことができた。
- ・大雪や凍結などによる登校困難な生徒たちの学びを保证するため、オンラインやリモートによる授業を積極的に実施した。考査前の授業確保や課題確認など、学べない状況に不安を感じる生徒や保護者のオーダーに応えるだけでなく、滞りなく授業を進められたことで職員にとっても意識改革に繋がった。
- ・3学科（林業科学科・食農科学科・普通科）ともに地域資源を活用し、学科を越えた横断的な特色ある教育活動を展開している。また、探究的な学習による地域の新たな魅力発信によって、地域を理解し地域に貢献できる人材育成にも繋がっている。
- ・習熟度別授業や類型別学習などの授業形態の工夫に努め、少人数クラスの強みを生かし、個々の生徒に対して丁寧な指導は継続的に行っている。
- ・「地域みらい留学」を利用して全国規模で生徒募集を行っているが、一番身近にいる地元中学生の進学率をさらに高めるため、山都町の支援を最大限に生かすとともに、引き続き充実した教育活動の展開を進める。また、中学生向けの情報発信だけでなく、その保護者や中学校の先生方にしっかりと伝わる情報発信にも力を入れる必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

- ・今年度はアンケート調査の回答率が低かった。回答率を高めるため、回答期間や回答時間の確保が必要である。過去には地域住民の方々にもアンケートを実施しており、アンケート項目によっては「答えようがない、答えにくい」などの声もあるが、調査対象者の領域も含めて再検討し、多数の意見を取り入れられる工夫・改善を行う。
- ・数多く外部へ情報を発信することに専念するだけでなく、アンケート調査結果をさらに分析し、「求められ必要とされる情報の提供」を意識した情報発信へと切り替えていく。
- ・18年となる本校の「朝の読書」であるが、一般的に定着し普及しつつある電子書籍の利用に関する校内調査（分析）、移動図書館や学級文庫の設置など、読書活動のさらなる活性化に向けた取り組みを強化する。
- ・安全で安心な学校として、バイクや自転車の交通安全指導の徹底、本校や地域の実態に即した防災活動、外部との連携による教育相談のさらなる充実など継続して取り組む。
- ・学校や地域の魅力を最大化するためにも、山都町との連携強化は必須である。次年度の計画予定にある魅力化コンソーシアム構想事業を生かした取り組みにおいて、学校だけでなく地域や行政とのコーディネート体制を確立し、地域の期待や要望に応えられる人材育成と学校づくりを目指す。